

IMAGICA デジタルプロダクション部

「Satellite Dock」オープンで制作体制を強化 作業効率の向上や納期短縮に貢献 Flare × 5 式 / コンポジターの集結と分散作業

(株)IMAGICA デジタルプロダクション部はこのほど、CM や映画作品など幅広い分野のコンポジット作業に、より柔軟に対応することを目的に、インハウス作業やバックヤードでの作業に特化した編集室「Satellite Dock (サテライトドック)」を開設した。Satellite Dock オープンにより制作体制を強化し、CG 制作 / VFX 作業の好調な受注や顧客ニーズの多様化に柔軟な対応を行っている。



Flare を 5 式を装備した Satellite Dock、右は複数のコンポジターによる作業風景

オンライン編集室を補完、全体をパワーアップ

Satellite Dock という名称は社内公募により決定。編集室を補完しながら周辺を巡回する“衛星”であると同時に、社内の様々なセクションと繋がっていく“ベース基地”として機能していくことを意味しているという。

Satellite Dock には、Flame/Inferno のクリエイティブコンパニオンソフトウェア「Autodesk Flare」× 5 式を導入するとともに、カラーマネジメントを施したマスターモニター / 民生用大型液晶モニターを設置。東京映像センター、銀座 7 丁目スタジオ、麻布十番スタジオの各拠点で稼働する Autodesk 系編集室 × 18 室と連携するカタチで、多様なワークフローに対応していく。

デジタルプロダクション部 担当部長の武坂耕二氏は「Flare は Flame での作業を補完する非常に優れたアプリケーションであり、リリースが開始された当初からマシンルーム内などで補助的なシステムとして運用を行っていました。ハイエンドシステムである Flame のコンポジット機能を

そのまま有する Flare を複数台組み合わせることで、幅広いニーズに対応することが可能になりました。例えばこれまで、バックヤードでの合成作業やマスク切りといったインハウスの作業も、編集室を一定期間確保して行っていました。ワークフローが多様化し、より複雑になってきている現状で、的確な作業配分を可能とするのが Satellite Dock です。各拠点に配備されている編集室の機能や部屋数はそのままに、新たに Satellite Dock をオープンしたことで、全体のパワーを大きく向上させることができました」とする。



Satellite Dock の全景

人の集約で相乗効果＝人材育成と制作の効率化

Satellite Dock は、編集室約2部屋分の広大なスペースを確保。10人程度の社内コンポジターが同時に並行作業できる体制となっている。また、Flare でのコンポジット作業に加え、編集機能および In/Out は Backdraft Conform で補っている。

デジタルプロダクション部 五反田制作第2グループ シニアコンポジターの石田延哉氏は「Satellite Dock の各システムはカラーマネジメントされたモニター環境が整っていることもポイントの1つです。Satellite Dock で作り込んだ素材は、そのまま Flame 編集室に移行することができます。もう1つのポイントは、社内スタッフが集結できる環境です。同様のシステムを複数稼働させていることで作業を補完しあったり、アドバイ



Flare

Flare の作業 / 手前は石田延哉氏
奥は武坂耕二氏

スを複数稼働させていることで作業を補完しあったり、アドバイスやフォローが容易に行えることから、各担当者のスキルアップにも繋がるだけでなく、積極的な若手の登用など人材育成にも役立つと考えています」とする。

テクニカルディレクターの石田記理氏は「これまで編集室ごとに分散しがちだった各スペシャリストが Satellite Dock に集まり、的確な人材を充てることで、最適なワークフローを構築していくことが可能です。デジタルワークフローは日々変化・進化していますが、それぞれの役割を明確化することで、より安定した品質の提供とクイックレスポンスにより、制作全体をフォローアップしていきます」としている。

多様化するニーズに対応してフレキシブルに変化

邦画営業グループ 課長の廣瀬英志氏は「映画制作においても、多様なデジタルシネマカメラの登場だけでなく上映の DCP 化など、デジタルのワークフローが主流になっていますが、心地よいフェードイン/アウトやオーバーラップなど、フィルムオプティカル技術で培ってきたノウハウがデジタル制作にも活かされています。ワークフローが複雑化している現状で、長期にわたるプロジ

ェクトや大型の案件に対しても、柔軟な作業の分配や並行作業が行えるのが Satellite Dock です。作業効率が向上することで、納期の短縮だけでなく、編集室の稼働率にも貢献できると考えています」とする。

武坂氏は〈CG/VFX に対するニーズが高まっているだけでなく、その内容はさらに細分化／多様化しています。それに対応していくのが Satellite Dock の機能です。現状の設備は、第 1 フェーズだと考えています。拡張性を考えスペースも既に確保しており、対応する設備もニーズにあわせてフレキシブルに変化させていきます〉としている。

◇(株) IMAGICA <http://www.imagica.com/>



写真左から武坂耕二氏、石田延哉氏、廣瀬英志氏、石田記理氏